

Nyonyum 2号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI



任地スヴァイリエンへ到着！スヴァイリエンってどんなところ？

首都プノンペンでの研修期間を終え、4月22日(金)に、協力隊活動の任地スヴァイリエン州・スヴァイリエン市に到着しました。プノンペンから、ベトナム最大の都市・ホーチミンとを結ぶ国道を車で約2時間半、約120キロ走らせたところに位置しています。(ホーチミンまでは車で約2時間)。高層ビルが立ち並ぶプノンペンとは異なり、中心市街地を出ると、のどかな田園風景が広がるスヴァイリエン州。これまで多くの人が農業に従事し貧しい州と言われていましたが、近年諸外国(特に中国)からの工場誘致が進み、暮らしにも変化が見られているようです。

カンボジア州区分地図



全24州で構成されている(日本は47都道府県)

州人口：約525,500人 市人口：約41,420人(2019)

スヴァイリエン市の玄関口



市街地を出るとのどかな風景が広がる



スヴァイリエンでの暮らし

スヴァイリエンでの暮らしの風景を紹介
地元の習慣や文化を体感しながら、少しずつ生活を慣らしています



朝食は外食で済ませる人が多い



ボボー 100円 (おかゆ)



クイティーウ 150円 (お米で作られた麺)

チュガニユ! (おいしい!)

このまち、最大の市場
食材、日用品、品揃えは豊富です



夕暮れ時の市民の憩いの場
涼んだり、運動したり...



カンボジア風ドライブスルー



任地での通勤手段



暑い時はCaféにて休憩



通勤路が突如封鎖され現れたテント
中では、「結婚式」が行われている



屋外での宴会。ビール、カラオケ、踊りが大好き!
出会いを祝して、日本の「糸」を披露しました笑



疑問

これは、カンボジアの紙幣 500 リエルです。日本円に換算すると約 10 円くらいでしょうか。よ～く見てみてください。何か気付くことはないですか!?



この紙幣には、二つの橋、そして日本の国旗、日の丸が描かれています。海外の紙幣に日本の国旗!？世界中の紙幣をみても外国の国旗が描かれている例はまれにみる珍しさです。では、なぜカンボジアの紙幣に日本の国旗が描かれているのでしょうか？

解説

東南アジア 5 カ国を流れる全長約 4800km のメコン川。カンボジア国内を東西に分断しています。



「ふるさとに帰りたい」「作物を都市部に届けたい」。川を渡るには、フェリーを使用しなければなりません。待ち時間が 30 分、ひどいときは 6、7 時間かかることもありました。



首都プノンペン郊外にて撮影。現在も、メコン川に架けられている橋の数は多くはなく、フェリーでの移動が行われている場所もある。

そこで、日本が、カンボジアの復興・経済発展への貢献として、交通輸送の改善を目的に「きずな橋」「つばさ橋」を無償で建設しました。

「きずな橋」は、2001 年、北西部に、カンボジア初のメコン川を渡る全長 1360 ㍎の橋として開通。カンボジアの復興の象徴とも言われ、国中がその完成を喜び、開通式には約 13000 人の人々が集まりました(写真)。

「つばさ橋」は、2015 年に、南東部に、全長 2215m の橋として開通。カンボジアと日本のさらなる関係発展を祈り、「つばさ橋」と命名されました。この橋は、ホーチミン-プノンペン-バンコクへとつなぐ道に架かるもので、国を超えたモノやヒトの移動がスムーズとなり、更なる経済の発展へと繋がっていきました。

そして、この「つばさ橋」の開通を記念して、新 500 リエル札が発行され、カンボジア・日本の国旗と共に、「きずな橋」と「つばさ橋」が描かれることになりました。



(写真引用：JICA「ODA 見える化サイト」)

前号にて、カンボジアにおいて、日本がもっとも信頼できる国の第一位にあげられている (2019 年外務省海外における対日世論調査) というお話を紹介しました。協力隊の日々の暮らしの中でも、日本への感謝を述べられることがあります。

「ボランティアに来てくれてありがとう」と声をかけられます。こうしたカンボジアの人々の日本への強い思いというのは、カンボジア紙幣に描かれた日本国旗の事例からもわかるように、先人や各 NGO 団体、先輩のボランティア隊員が、丁寧に築き上げてきた信頼関係の賜物なんです。